

クイーンズランド州スカラシップレポート



オーストラリアクイーンズランド州
期間：2024年7月25日～8月9日
木村 琥珀

1, はじめに

埼玉親善大使としてオーストラリアクイーンズランド州に派遣させていただきました木村琥珀です。約2週間オーストラリアに滞在して、現地の学生と同様に通学し、日本では味わうことのできない貴重な経験ができました。このような機会を与えてくださった埼玉県国際課やクイーンズランド州教育省をはじめとする関係者の方々、温かく迎え入れてくれた現地の学生とホストファミリー、そして、留学期間を共に過ごした5人のスカラシップ生に感謝申し上げます。

このレポートでは、私が訪れた Yeppoon という地、学校とホームステイ生活、親善大使としての活動等について紹介させていただきます。

2, Yeppoon について

Yeppoon はオーストラリア大陸の北東部に位置するクイーンズランド州の中央部に位置する小さな町です。日本から約9時間のフライトでブリスベン空港に向かい、国内線に乗り継いでロックハンプトン空港到着後、車で移動し Yeppoon に到着しました。

豊かな自然ときれいな海、のどかで空気が美味しい素敵なところです。家から5分程でメインビーチに行けるので、自然を堪能できました。

私達が訪れた7月は冬で、昼間は気温が20℃前後と比較的暖かく過ごしやすかったのですが、朝晩は10℃以下と冷え込みました。今季は寒い時期が長引いていたようで、長袖が快適でした。



Yeppoon main beach

3, オーストラリアで体験したこと

週末にはスカラシップ生と Cooberrie Park Wildlife Sanctuary に行き、オーストラリアの代表的な動物であるコアラやエミュー、カンガルーと触れ合いました。また、ロックハンプトンにある Culture Centre で民族楽器ディジュリドゥの演奏、ブーメラン投げ等の体験をし、アボリジナル文化を学びました。その後は、Heritage Village に行き、かつての病院や学校、家を再現した建物に入り、オーストラリアの歴史と文化に触れることができました。



Cooberrie Park でコアラと

4, 学校生活

ホームステイ先から徒歩 5 分の Yeppoon state high school(YSHS)に通学しました。中高一貫教育で、異学年でも同じ授業に参加することがあり、とても新鮮でした。最も印象に残った授業は、美術での写真現像です。初めての経験だったので、興味深かったです。バディーは毎日交代でサポートしてくれました。授業時間は 70 分の 4 時間授業で、2 時間目の後に AM ブレイク(40 分)、3 時間目の後に PM ブレイク(30 分)という休み時間がありました。お昼は主に AM ブレイクでとるので、お腹が空くと集中できない私からすると快適な時間割でした。PM ブレイクではスポーツをしたり、お菓子やアイスを食べたり、とても楽しい時間を過ごすことができました。

7 日目、カトリックの女子校に訪問しました。その日は遺伝子の病気を持つ子供たちを支援する募金活動の「ジーンズ・デイ (Jeans for Genes Day)」が行われていたため、多くの生徒がジーンズを履いていました。このような活動をイベント形式で行っていることに意識や行動力の違いを感じました。とても素敵な活動だったので、私も日本でボランティア活動を積極的に行っていきたいと考えました。

5, ホームステイ生活

私のホストファミリーはファザーとマザーの 2 人で笑いの絶えない楽しく優しい家族でした。ホストファザーは料理が上手で、オーストラリアの伝統的なたくさんの料理をご馳走してくれました。最初は、緊張でなかなか英語が話せずスラングに戸惑うこともありました。しかし、自分の意思を伝えることで、やさしい英語で話してくれたので、会話が弾むようになりました。開催中であ

ったパリ五輪を一緒に観戦した時には、互いの国を応援し合い、盛り上がりました。毎晩一緒に映画を見たり、River festival という地元のお祭りに行ったり、夜には焚火をしながら星を眺めたり、全て忘れられない素敵な思い出ばかりです。

週末、ホストファザーの友人宅に夕食に招かれました。親日家の R さんの家庭には YSHS に通うイタリアからの留学生の女の子がいて、とても仲良くなりました。みんなで手巻き寿司などの日本食をつくり、日本のアニメや食などの会話が弾みました。

たくさんの愛情を注いでくれた 2 つの家族に感謝し、またいつか再会したときにはもっと色々な会話ができるように、これから更なる英語力向上に努めたいと思います。



sausage sizzle



ホストファミリー



meat pie

6, 親善大使として

- ① ホストファミリーには、埼玉県銘菓の草加せんべいと狭山茶、その他日本グッズをプレゼントしました。週末には、白玉を作り振舞いました。学校では、草加せんべいとおもしろ消しゴム、クレヨンしんちゃんのお菓子を配りました。喜んでもらえて嬉しかったです。他にも、自作した埼玉県の名所をまとめた冊子や写真を見せて紹介しました。
- ② インスタグラムを通して留学の様子を発信する活動も行いました。
@_amber02_au という自身のアカウントで、日本との相違点について毎日写真と共に投稿しました。英語と日本語を用いて発信したことで、より多くの人にリアルを届けることができた、懸け橋になれたと感じています。
- ③ 在ブリスベン日本国総領事公邸にて、クイーンズランド州・埼玉県姉妹提携 40 周年記念アフタヌーンティーセレモニーに出席させていただきました。これまでの歴史や、8 年後にブリスベンで開催されるオリンピックなどの貴重な話を伺いました。

7, まとめ

遠く離れた地でも、日本に興味を持ち、日本語を一生懸命勉強している多くの人々がいることを知りました。そのことにとっても感動し、何より日本人として嬉しく、誇らしく感じました。

オーストラリアでは初対面でも気にせず声をかけ、仲良くなること。お風呂の時間は5分間で水を大切に使用すること。自分の意見を主張すること。お店の閉店時間が早いこと。学校には授業で描いた壁画があること。車を運転して通学する生徒がいること。日本では珍しい光景をたくさん目にしました。

私は特にオーストラリアのごみ処理問題や海洋汚染への取り組みが印象に残りました。クイーンズランド州では、空になったペットボトルや缶等は1つにつき10セントの返金制度があるとホストファザーから教えてもらいました。オーストラリアは自然が豊かで、環境保護への意識が高いと感じました。募金や社会問題に向き合うことは当たり前に行われています。働き方も日本とは異なり、家族との時間を大切にしていると感じられました。魅力的な国であると身に染みて分かりました。日本との相違について気づいたことも多く、日本を海外からの視点で捉えることができました。

留学を経て、それまで生きてきた環境(性別、年齢、国籍)を問わず、平等に生活できる環境と、人との繋がりを大切にすることが重要だと考えました。改めて、このような素敵な機会に携わってくださったすべての人に感謝申し上げます。



St Ursula's college で



YSHS で



Rさん家族



Yeppoon 市長とスカラシップ生